

平成30年度第1回中頓別町総合教育会議議事録

- ◎開催日時 平成30年10月30日(火)13時30分～15時00分
- ◎開催場所 中頓別町役場会議室
- ◎出席者 田邊教育長、石井英正委員、小倉弘委員、村田華奈子委員
小林町長、遠藤副町長、
事務局～工藤教育次長、小林総務課長

1. 開会

平成30年度第1回中頓別町総合教育会議を開催致します。

2. 町長挨拶

1年に1回という感じになってはいますが、総合教育会議ということで、たいへんお忙しい中、ご出席頂きまして本当にありがとうございます。田邊教育長を迎えて以来、教育のところでは、新しい取り組みが進んできていると思っています。町としましては、子ども子育て教育、そこを何よりも大事にする、政策的には一丁目一番地という気持ちで取り組んでいるところです。これまでの経過について振り返りながらも、さらに前に進んで、どのような取り組みをしていったら良いかということについて積極的に議論が出来たらと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

3. 協議事項

(1) 中頓別町総合教育会議設置要綱の一部改正(案)・・・総務課提案

中頓別町総合教育会議設置要綱の一部改正案ということで、ご提案させて頂きたいと思っております。別紙資料の4ページ目、改正の要旨ということでご説明申し上げます。中頓別町総合教育会議の充実を図るために、第3条構成員の関係ですが、行政側の構成員に町長のほか、副町長を加える。また、第9条庶務において規定されている総合教育会議の事務局は、総務課のほか、教育委員会事務局を加え、第9条ただし書きを削除するものであり、町長部局と教育長部局の連携を密にするものである。なお、施行は平成30年10月1日からとして、今年度の中頓別町総合教育会議から適用としたいということで、ご提案申し上げたいと思っております。昨年までは副町長が総務課長を兼務しておりましたので、一緒に参加するという形になっていたのですが、私が4月1日から総務課長に就任したものですから、今までの流れの中で、副町長に是非、参加をして頂いて、教育の総合的な観点でご意見を頂けたらと思いがえたということと、教育委員会事務局につきましても同様でありまして、総務課と合同で事務局を行うことで、より、議案等の準

備或は内容の確認等がお互いにし易いということもございまして、お互い事務局ということで整理したいと思っています。なお、今回から適用したかったものですから、たいへん申し訳ございませんが、10月1日に遡って適用ということでお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

○承認を得る。

それでは、改正案につきましてはご承認を受けたということでよろしく
お願い致します。

(2) 会議録署名員の指名

○石井英正委員

○村田華奈子委員

(3) 平成31年度予算について

【教育次長】

平成31年度の予算についてお話させて頂ければと思います。資料1枚目をめくって頂きまして、まず、昨年から始まりました事業について、状況を報告しながら来年度に向けてのお話をさせて頂けたらと思います。まず、中学生の海外英語研修事業につきましては、今年度8月3日から8月10日まで田邊団長をはじめ、子どもたち中学2年生が6名、3年生が11名の17名で参加致しました。引率としまして教育長をはじめ中学校の校長先生、諸先生方をお願いし無事に終了致しました。子どもたちの感想、それから引率した先生方の感想、この間いろいろ聞いておりますが、今日、18時から報告会がございまして、保護者に対して子どもたちから報告があります。また、町民文化祭に合わせて、11月3日に町民向けの報告会を開催させて頂き、子どもたちの思いを町民に向けて発信して行きたいと思っております。今年度につきましては「無事に終了させて頂きありがとうございました」という感謝の気持ちと、もう一枚めくって頂きまして、事業の会計を今整理しているところでございます。900万円の交付金の中で26万円ほど余っているような状況でございしますが、この後、保護者向け報告会、それから町民向けの報告会による資料の印刷をしていこうと考えています。印刷業者をお願いせず、自前でプリントアウトして作っていくためのトナー代、この間の手続きに係る郵便料、いわゆる切手代、また、コピー機を使用させて頂いたコピー代等整理をし、今月11月の中までには精算していきたいと考えております。もう1枚めくって頂きますと、31年度の予定人数について、現在、整理をしているところであり、2年生につきましては12名、3年生につきましては、いわゆる今年行けなかった2年生4名という

形になります。全員で16名を対象として計算させて頂けたらと考えてございます。今年度と同じような日程を進めることがどうなのかというところの議論はもう少し詰める必要があると思います。反省の中では、「夏祭り、スポーツフェスティバルへの中学生の参加がなく町内で寂しいと思います」とのご意見も頂いていますので、それも含めて日程調整をさせて頂きたいなと思っています。なおかつ、自分たちが一番気になるのは、子どもたちが普段係わっている部活動の全道大会等がどうしてもその日程近くにありませんので、確実にクリアしていく必要があると考えてございます。金額的には、もう一枚めくって頂いて、今年と同じような日程で組むとしたら8月2日から8月9日、いわゆる、向こうに行って週末を迎え、ホストファミリーとくつろぐ時間、交流する時間を先に持った中で、一般の研修に入っていく形がベストなのかと考えると、この日程を候補として上げさせて頂いてございます。先ほどお話をさせて頂いたとおり、日程等、今年とは違い来年度に向けてはなるべく早くから中学校への投げかけ、参加者の集約等を進めてまいりたいと考えてございます。費用につきましては、今年お世話になったJTBから見積もりを頂いているところですが、今年度の費用の1割が来年度については上がってくるような見通しを立てているということでございます。正式な金額につきましては、年明けの2月ぐらいになると、31年度の費用については、ある程度見えてくるところがあるというお話は頂いています。「人数が減っているのに金額が上がっているのはなぜなのか」という思いは私も持っているのですが、今頂いている見積もりではこの金額になっているというところでございます。いずれにしても、その辺は改めて整理をしまして、31年度に向けた当初予算に計上させて頂けたらと考えています。続きまして、英語力の育成事業に係る外部検定試験経費補助、いわゆる、英語の検定に係る費用を補助してもらう事業でございます。これは30年度からスタートしたものでございます。第1回目につきましては、間に合わないかと考えていたのですが、中学校の先生にお願いしながら、1回目から取り組むことができました。1回目につきましては3名の受験で残念ながら合格者は1名。2回目の受験につきましては、すでに10月5日に実施してございます。合格の決定者が5級が1名合格しています。4級についても1名合格してございます。3級につきましては4名が受験いたしましたが、一次の合格が3名、現在合格しているところです。これから、11月3日、町民文化祭の日ですが二次試験がでございます。第3回目に向けて、さらに中学生に受験してもらうよう呼び掛けをしていきたいと思っております。今後も引き続き、実施したいと考えているところでございます。それから、もう一枚めくって頂くと漢字の検定について整理してございます。漢

字の検定は小学校1年生から中学校3年生まで全員を対象に、各年代にあった費用を計算して整理をしているところでございます。1年に2回は間違いなく受けることが可能な予算を計上させて頂いています。第1回目は7月13日に既に実施し、31名が受験し28名が合格。第2回目につきましては、11月2日にこれから実施するところでございます。16名の申し込みがありました。今回は16名の申し込みと少なかったのですが、中学生の申請がなく、全員小学生ということでございます。第3回目に向けましては、中学校の先生も言っていました、「改めてどんどん募集していきたいという思いで取り組んでいく」との確認をしているところでございます。今のところ47名受験していますので、平成24年から平成29年までを比較すると、すでに大幅に受験生が増えているところでございます。来年度に向けてさらに子どもたちも受験してくれると思います。英語の検定、そして漢字の検定ともに、日頃からの勉強の学習習慣を何とか育成していきたい。それから、試験に合格することによって、また、試験に落ちたことによって、「また次、頑張っていくぞ」という気持ちを高めていきたいという思いでございます。引き続き是非とも継続して予算化して頂きたいと考えてございます。ALTの関係について、でございます。これから11月7日から8日、帰ってくるのが9日になる日程で、すでに七ヶ浜町立亦楽小学校の須藤校長先生にお話しさせて頂き、グルーカルプロジェクト、いわゆる、ALTの子ども達に対する英語のプロジェクトの研修に行かせて頂きます。今年の総合教育会議の中で、町長より「こういう取り組みをしているところがあるのですよ」というお話を頂いたものでございます。今回、遅ればせながら行かせて頂いて、小学校のALTによる英語の授業について十分に研修していきたいと考えています。教育長とALT1名が行かせて頂くことになっています。引き続きALTの関係につきましても、町長のご配慮を頂ければと思いますし、昨年も話が出ておりましたが、今のALT1名を町職員として迎えられるような方向で教育委員会としても考えておりますので、ご協力頂ければと考えています。校務支援システムというものがございます。1枚めくって頂いて「学校における働き方改革アクション・プラン」を今年6月に策定し、教育局等に提出しながらプランを推進しているところでございます。学校の先生が、子どもに向き合う時間を少しでも多く取るため、日々の勤務に対して軽減できるところ、また、1年1年経費がかかってきますけど、システムを導入することによって確実に軽減が可能になってくるという実績もございますので、是非ともこのシステムについて、平成31年度予算に計上させて頂ければと考えています。詳細はこれから町とも協議する必要があるのかなと思いますけど、初期に係る経費、それから毎年かかってくる

経費等ございますので、十分に打合せさせていただきます。働き方改革の推進プランを推進する上でも、必要なシステムということで、教育委員会として考えていますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。次に学校給食費の補助の関係でございます。昨年の8月から町の補助を頂いております。毎食の給食に対しての変化というのは見えづらひところがありますが、ほぼ1年が経ちましたので、調理員も慣れてきたところがあり、かなり新しいメニューに取り組んで季節の食材を十分取り入れた給食になってきていると思ひます。子どもたちの人数も若干、転入なり転出なり、実は先週末で中学生も一人転出しております。若干人数の変更はございますけど、是非とも給食費、それから今までお話をさせて頂いた、いろいろな事業の補助に向けて、子どもを持つ家庭を少しでも軽減できる形の取り組みについて、教育委員会として取り組んでいきたいと考えておりますので、予算の計上をさせていただきますと思ひております。少し長くなりましたが、学校建設に係るスケジュールについて、この間、いろいろと打合せをさせていただきますながら進めているところではありますが、一向に進まず立ち往生しているような状況にあります。何とか今年度には基本構想に手を付けることが出来て、来年度、基本設計に向けた準備をしていくような形で考えております。現状、建築技術センターと相談させていただきますながら、どういった形で建てるのか、どういう方向で進めていくのかというところを相談させていただきますところですが、建築技術センターも忙しく、少しずつ担当者と打ち合わせをする形をとっています。その点については改めて町長と相談しながら進めさせていただきますらと思ひております。12月に基本構想に向けた答申の費用であったり、基本設計を含めたアドバイザーの費用であったりというところの計上の必要があると思ひますが、1日にも早くその方向に向けてスタートしていききたいと考えているところでもあります。今のところいろんな案があるのですが、既存の小学校について町長がおっしゃっていましたが建物の減価償却年数、鉄筋コンクリートで40年、45年という話がありましたけど47年。その他に学校整備補助金につきまして、校舎の分について補助金の返還基準となるものが60年というのが出てきております。そこを踏まえて改修計画の方を進めていきたいと考えていますので、まだまだ、町長の思いには届かないところもあるのですが、そういった形で進めているところでもあります。来年度の事業についての私からの説明は終了しましたので、引き続き、教育委員会教育長から説明申し上げます。

【教育長】

それではお話をさせていただきます。学校の働き方改革を進めるため平成32年までに目指す目標があつて、部活動休養日を完全に実施する。年間73日

以上、部活動の割合100%となっています。これは下段の部活動指導にかかわる負担の軽減で週2日100日以上プラス学校閉庁日9日以上となっているので、具体的には109日以上となっています。中学校は、この体制が出来ているので、この数字の目標に到達していると私は認識しています。それから3ページを見て頂きたい。部活動の活動時間ですが「平日は2時間から3時間で終了します。」3時間までやっている時はたぶんないと思います。中学校では18時20分のスクールバスの時間に合わせていますので、最大やっても2時間ちょっとだろうと思います。「土曜日、日曜日、祝日及び長期休業中は、大会やコンクール等の出場に該当する場合を除き半日程度で終了します」と半日になっていますが、スポーツ庁からの通達、道の方の働き方アクション・プランでは3時間となっています。これには自分でこだわりをもっています。なぜ4時間、半日程度にしたかと言いますと、部活動指導手当があります。4時間以上でないと思えないのです。それで4時間にこだわっています。本町はあくまでも半日程度でいきたいという思いがあります。このことは教育局にも伝えてありますし、別の会議の中でも、部活動指導手当支給の見直しについて出ているので、その辺については検討してくれるのではないかなと思っています。3時間程度で支給となったら、先生方は3時間で止めるだろうと私は思っています。来年度に向けて、中頓別町文化塾というものを考えています。私の頭の中で考えているのは、年4回から6回程度、外部の人に来て貰って講演会をやってもらおう。講師の確保は厳しいかもしれませんが著名な方に来て頂いてお話しして貰う。これは、今年は、4月から頭にあつたのですが、結果的に出来ませんでした。浜頓別町小学校の校長は日本人学校で教職の経験があつて、スペインとドイツで経験があります。海外の日本人学校の話をもっと聞いてほしいという思いでいました。私の友人で佐々木啓司さんという野球部の監督がいます。その人に来てもらってお話をしてもらおう。大学の先生にも2、3人知り合いがおります。それぞれ分野が違いますので、それぞれの分野について話をしてもらおう。時には著名な人が来てくれれば良いなと勝手に考えています。働き方改革の関係なのですが、現在、小学校の先生は町費の専任教諭で対応しています。今年は、町費で教諭の確保は極めて厳しいと思います。ただ、複式学級を学年ごとに授業することで、こちらの教員は継続して採用していきたいと思っています。小学校は4～5年生は複式になる予定ですが、教科の複式学級が解消され、算数、国語についてはそれぞれの担当の先生がそれぞれの学年で授業をするということになります。働き方改革の中でも書いてあるのですが、その部分は三角として考えています。ただ、昨日、美深で行われた英語教育の講演会に行ってきました。教育課程調査官の

話が新鮮でした。是非、小学校先生に聞いてもらいたい。中学校の英語の先生にも聞いてもらいたいと思います。文科省の調査官が熱い思いを持って学習指導要領を執筆されて、これからの英語教育を考えているということがひしひしと伝わってきました。参考までにお話しますと、小学校で ABC、アルファベットは指導してしまう。中学校では指導しない。今までは ABCD という指導が基本だったのですが、それが順番が異なった形で、まず、線対称、A、H、I、Mとか、その後は直線で出来ているもの E、F、Kとか、その次は曲線と直線で来ているもの R、P であるとか、次は曲線で出来ている Oとか Qとか、今までと全く発想が違う。大文字を指導した後に小文字を指導することを熱心に話されていました。また、コミュニケーションやスマイルトーク等のお話もされました。ペアーを作って隣の方と私もやりました。参加していた校長先生も「校長先生、そんな難しい顔をしないで参加して下さい」というような感じで、2時間半ほどお話していたのですが、時間が短く感じられ、ずっと聞いていました。非常に良い公演でした。講師の話の聞くと全然違います。講師は直山木綿子（ゆうこ）という方です。私は前からこの方を知っていました。直山さんの講演を初めて聞くことが出来ました。すごく幸せな気分です。小学校1・2年生の放課後英語教室をやっているのですが、ALTに任せっきりで殆ど先生方の協力が無い。これについては行政主導、教育委員会主導、教育長の思いということで。来年度からは先生に入ってもらおう。「授業として1年生2年生やって下さい」というような意向で小学校に示したいと考えています。何で刺激を受けたかという、今、もうすでに全国では3年生、4年生で35時間、5年生、6年生で70時間とやっているところが、小学校3～4年生が4割、5～6年生が3割あるとのこと。宗谷は15時間から25時間。遅れているという、勉強不足という、全国的にはそれぐらい英語教育に力を入れている。もっとはっきり言うなら、「先生方、勉強しなくてはだめですよ。学校だけではなくて普段での勉強、英語に興味を持って下さい」と言われました。非常に耳が痛い、直山さん良く言ってくれたという思いでした。美深町では全ての小中学校の先生がその公演を聞きに来ていました。教育課程調査官が見た3年生と6年生の授業の講評もありました。非常に厳しい意見がある中で、それを行うのが美深の町。授業をした先生が一番前に二人いるのです。これはすごいことだなと思いました。美深町の教育長は「小学校、中学校、美深高校の英語の学びで日常的な英会話が出来るようにしたい」という思いを語られました。これは本町でも同じです。やはり英語教育にかなり情熱を置いているところとのんびりしているところとあるなと思いました。一つ自分の中にあるのは、教育長研修会で新篠津の教育長が言っていた

のですが、小中一貫教育をやっている中学校の先生は、自分が小学校に行つて、今度入ってくる中学生はどんな子供たちなのだろうということを見たいという思いがある。来る子どもたちを理解して授業する気になる。小学校の先生は、卒業した子どもが中学校でどうしているのか、「自分で行って授業してみても乗ってこないという話をされていました。全く同感です。小学校の放課後教室にしても、自分たちで線を引いてしまつて、それは私たちの仕事ではないという思い。少なくとも月に1~2時間のことです。ですから、英語教室にかかわってもらいたいと思います。小学校の行事についても、自分で勝手に決めてしまう。初めに学校の考え方をPTAや保護者の方に説明して、それから「こうしますよ」という説明が必要ではないかと思っています。そういった意味からすると、「教育長の方でこうやれあれやれと勝手に組んだ」と言われたら困るのですが、それとこれとは違う。教育のための行政指導をやっているのだということは理解してもらいたいと思っています。中学校の方は、先ほど教育次長から説明がありましたが、ハワイ研修について、今日、保護者向けの報告会がおこなわれます。どういふ報告会になるかは楽しみなのですが、やっぱり行ってきたこと、もう2か月以上経っていますけど、あの日々について、ホストファミリーと生活したことについて、何らかの心の成長というか、何かを感じてくれたのではないかと思います。小さな町の大きな取り組みでした。私は、成功したと思っています。教育長研修会の懇親会の時に研修の情報を貰った赤井川村の馬場教育長さんと、偶然、隣になりました。「あなたの傍にいたかったんですよ」と言って話をしました。赤井川村は、オーストラリアに夏場、中学生全員を、最初は希望者だったのですが今は全員を派遣しているという話を30分ほどしてきました。「うちは希望者だけとしている」と話したら、「全員行くとなるとモチベーションの関係で意識が違う」ということを言っていました。「希望者の方が正解だと思う」と言われていました。20年実施しているので、だいぶ形が出来ている。その年によって、英語を学ぼうという意識に温度差があるのかなと思いました。うちは希望者だけなので、「意識だけは高く持って行かせたい」との話をさせて頂きました。ホストファミリーは3泊、年によっては6泊とのことで、結構やっていると思いました。「ホストファミリーには基本的にはお金がかからない」とのことなので、結構出来るのかと思いました。長年実施していると、ホストファミリーの人は日本語を勉強したい気持ちでいるのだそうです。その気持ちは分かります。でも、中学生は英語で話したい。ホストファミリーは日本語で話したい。そういうところがあると話してくれました。私は中頓別に来てから、結構、整理するといろんなことをやっていると思います。一番最初にや

ったのはフッ化物洗口です。子ども園から中学校3年生まで、子ども園は毎日、小学校と中学校は週1回の実施は軌道に乗ってきたと思います。ただ、洗口液の調整は、教頭先生がやっています。如何なものかと思っているのですが、それが学校の実態です。それは私の業務ですか。それは私の本来業務ではありませんと言われる。それを教頭先生にやって頂いている。もうそろそろ協力して頂けないかと思っています。土曜日授業について、中学校は今年、8時間実施しています。小学校は5時間です。小学校は少なくとも外国語活動を15時間やらなくてはならない。平日の木曜日の6時間目を使ってやっているのですが、その部分、窮屈になるのではと思っています。それであれば、少なくとも6回やっていたのを8回やろうとなるのかと思いましたが、そうはなりません。来年は、外国語活動は25時間、3年生から6年生で増えます。結構増えます。空いている時間が殆どなくなってしまふ。そうすると鼓笛隊を止めてしまふ。鼓笛隊を止めるのであれば慰霊祭の時に何かやらなければと言いたいのですが、「鼓笛隊がこうこうだから練習できなくなってきた。」でも慰霊祭の時は「校歌とふるさとを歌う」そのぐらいの意見を出してくれるのであれば、私たちも「そうか」となるのですが。ただ、お祭りの時には鼓笛演奏を楽しみにしている人がいる。そのことも考えて頂きたい。時間がなければ作り出せば良いと思うのですが、なかなかそういう発想にはならない。あまり言うとは押し付けになるのかもしれませんが、言わないとやらないということで縮小していく傾向にある。総合的な学習の時間の組み替えがあっても良いのではないかという思いも持っています。今年の中学校の全国学力学生状況調査は数学のAが全国平均並み、国語のA・B、数学のB、理科は、全国平均以上となりました。これは11月6日に新聞に出ます。新聞は市町村別ではなく管内別です。小学校は残念ながら全道平均を下回っています。私の目標は、全国平均以上。それがだめであれば全道平均以上。少なくともと言ったら語弊があるかもしれませんが、宗谷管内の平均以上にしたいと思っています。残念ながら今年の小学校はそうはいかない。どこに原因があるのか。先生方から言わせれば「子どもたちが勉強しない」そう思うかもしれないけど、私はそうではないと思います。そこのところについても、もう少し小学校に危機感を持ってやってもらいたい。「先生だけの責任ではないよ」という人もいるかもしれませんが、点数が高くて、親御さん喜ばない人はいないと思います。100点取ってきたら親は喜ぶと思います。勉強が好きで「何で勉強やっているのだ」と怒る人は全くいないと思います。そういうような町になって頂きたいなと思っています。以上でございます。

(4) 町長と教育委員との意見交換

- 町長～是非、他の委員さんからも思いを、全てでなくて構いませんので感じていることなどを是非聞かせて貰えればと思います。石井委員さんからお願いして良いですか。
- 石井委員～教育方面長くやり過ぎたのかもしれませんが、何がどうなのか分からなくなっている。ただ、一番は今、教育長が言われましたが、子どもたちがどうしているのかということが気になるところが一番気がかりです。私たちの委員会も学校訪問を年に何回かやらせて頂いていますけど、もうちょっと見てみたい。私は年にどうしても忙しい時期がありまして、そこは無理なのですが、これからはそんなに忙しくありませんので、もう少し学校の様子を見てみたいなというところが私の思っているところです。それと、学校をどうするのかというところを思っているところがございます。私の方としましては今のところそんなところです。
- 村田委員～いろんなことを役員になってやってきているのですが、実際親の方から、家庭の方から見た場合には思ったほど伝わっていないとか受け止めてくれていないのではないかと感じます。あつて当然とか、受け止められているのは。給食費なんかもせっかく補助して貰っているのに、うちからすると御飯代を親が払うのが当然なのですが、でもそれは貰ってしまえば当然のようになる。補助が無くなるとなれば問題になる。もう少し上手くみんな受け止めてくれるというか、親を教育という訳ではないですけど、ハワイに連れて貰うことに関して、みんなが子どものためにと思っていることになっていない。どうしたら良いのだろうかと感じる。若い人が町を出て行ってしまふ。「戻ってこい」という教育がなかなか出来ないと思います。出ていく時はしかたがない。私も子どもには一度出てほしいと思っている。その上で「やっぱり戻りたい」という町になっていなくてはならない。私も自分の九州に戻っている訳ではないので、私の友達に戻ってやっているし、ただ良い思い出がある。戻る人間、戻らない人間がいると思いますが、良い思い出を作らせないといけないと思います。
- 小倉委員～教育委員、今年8月から受けて、何回も会議等々出ていまして、今までは子どもの保護者という立場とPTAの役員もやっていたので、それなりに学校の教育とか知っているつもりでいたのですが、改めて教育委員になると教育委員会の大変さがすごく分かりました。いろんなことを子どものためにやってくれているなどということはすごく感謝しています。先ほど村田委員が言っていました、その辺が保護者にあまり伝わっていない。私の息子もハワイに連れて行って頂きました。給食費も3

人も補助して頂き、たぶん一番恩恵を受けていると思います。中頓別でなければ経験できなかったのではないかと本当に思って私自身は感謝しています。息子もハワイから帰って来て、だいぶ刺激があったのか、今までとは考え方も変わったのではないかと、行って良かったとっております。先ほど資料の中にもあって、今年から始めて残念だなと思ったのは英語検定。うちの息子はやらせて頂いているのですが、もっと受けて貰って良いのかな。単純にお金の関係ではないのかなというところを思いました。もう少し学校側から、投げかけというか、先生から見てこの子なら大丈夫かなというところをアプローチというか「受けてみたら」という声掛け。自信がないから受けないのかなという子が多いのではと思うのですが。最初は「落ちても良いので」というぐらいの気持ちで、また、もう一度挑戦してほしいなと感じます。漢字検定については、みんな受けているので素晴らしいなと思います。検定となるとそれに向けて、すごく勉強するようになるので、すごく良いことだと思うので、これからも続けて頂きたいと思っています。

- 町長～いろいろ取り組んでもなかなか伝わらないというか、分かって貰えないというところというのは、行政が決めてしまうのではなく、その必要について自分達が考えて「やってくれたら良いのにな」という要望みたいなものをまとめ、それが上がってきて実践していくという形になれば、もっとやっていく事業の必要性とかが父母と共有できるのかなと思います。給食費も教育委員会の内部で検討して貰って、こういうふうにやりましょうと決めた。その過程に父母が参加していない。そういうのが一つあるのかなということ。父母の要望とかはPTAにまとめてもらうとかいろいろあると思うのですが、下から意見が上がってくると、また違うのかなと思います。もう一つ、地理的なとか環境的なハンディがあるのかなということ。なかなか、給食の補助をしていますとか、英語の研修を始めたとかでは埋まらないぐらい環境的なものを感じているのは、もしかしたらあるのかもしれない。どこまでやったら十分なのかというところはなかなか難しいところなのですが、できるだけ「そういう仕組みがほしいよね」ということを保護者が子ども達の手を引きながら取り組んでいけたら、分かって貰えるのかなと感じがします。教育委員会の、海外の英語研修のために、今年度基金を積みます。去年は2億数千万も収入が入らなかったのですが、その分、昨年、取り崩しをしないでやれましたので、その分が残っている。今年分も含めて、どのくらい残るか分かりませんが、財政が厳しくなってきたので来年から止めますということになりますと、子どもたちにごっかりされてしまいますので、できれば目

標としては、子どもが生まれた時に、間違いなく中学生になったら英語研修、どんな財政状況でも「目的基金がありますので行けますよ」というぐらいの基金に出来れば良いかなと思っています。短期的にはいろんな時期、評価があると思いますが、まず、続けていくということが大事ではないかと思っています。あせらずに、結果、評価を受け止めながら続けていくということ、そこまで一定の会話が身に着けられるというところを、子ども園から小学校、中学校一貫してやっていくところを是非、作り上げてほしいかなと思っています。先ほどの小学校1年生の英語は授業外の取り組みになっているのだと思いますが、ALTにだけ任せて取り組んでいるという実態が寂しいなと感じる。学校独自で取り組んでいるところもずいぶんできているのですね。先ほどの話を聞くと、それをやりぬくということ、学校で出来なければ放課後も含めて、是非、当たり前なことになってきていると思うので、そこは、よそより遥かに高くとは思いませんが、すでに進んでいるところよりは遅れているという認識から取り組んで貰いたい。教育長が宮城県の小学校に行って頂けるということですが、私も昨年小学校1年生の授業を見てびっくりして帰ってきました。先日、中小の小学校6年生の授業を見せてもらって、ダリンとジャクレンさんの二人で頑張っていて良いかなと思っていましたが、率直に言う、「何で、ALT二人でやっているの」というのが一番の感想でした。先生たちも教室にいるのだけど、二人が中心になってやっているというので、私が宮城県小学校で見た景色とまるで違うというか、せつかくALTが二人いることで、担任の先生達の役割が、負担を軽減して他に力を発揮させられるということにとれることなのか分かりませんが、ALTの二人いる効果を最大限に引き出していくのは、各担任とALTが一つずつ授業を担う。それで時間数を、機会を多く取り組んでいくことではないかと思っています。小学校の授業について、教育長が随分ストレスを感じているところが見て取れましたけど、先生たちを頭から押さえて前に進むことでもないのかなと思ひ、どうやったら先生たちがもっと意欲的にそこに取り組んでいけるのか、そういった環境ってどうやったら出来るのか、もう少し考えて実現して頂けたらなと思う。若い先生達が多いのでいろいろと管理職も含めて大変だろうなということは分かるのですが、先ほどの話では遅れている実態がある。少なくとも進んでいる学校よりは相当遅れている実態がある。もっともっと、他の子どもたちは機会を与えられているところを共有して、そこに近づける気持ちが出来たら嬉しいかなと思っています。英語検定や漢字検定もその中で取り組んでいけたらと思います。ALTの正職員化に関しては、本人の希望というのは聞き

つつ、意識とか普段の行動を含めてしっかり育ててほしいと思います。あと、働き方改革の校務支援システムについては、やったら良いのではと思いますけど、何かこう違うのではないかといつも思うのですが、報道を見ている、働き方改革によって部活動の時間を制限するとか、教員の働く時間を制限するのは良いと思う。教員にはこれ以上の負荷をかけるべきではないというのは分かるのだけれど、部活動とかそういうのは子ども本位で、子どもにとってどういう形が望ましいのかが出発点であるべきだと思います。部活動の時間が休養日とかに設定されていますけど、それは先生についての話ですよ。

- 教育長～先生だけでなく、生徒の部活動の時間についても。
- 町長～例としてですが、放課後に2時間以上、部活動やるのは子どもにとって良くないということなら良いのですが、先生の働き方のために、本当は3時間やれば良いのに2時間に抑制されているとか、そういうことではないと感じる。子どもたちは3時間部活動を望むし、先生は2時間以上働き方として働けない。それでは、その3時間の部活動をどのようにやるかという仕組みを考えるのが基本のような気がするんですけど。感想的に言わせて貰いました。
- 教育長～部活動についてもそうなのですが、道の計画についてはそういう文言を入れなさいという指導があつてこう書いています。そこで事故が起こった場合、必ず責任問題になってくる。文科省、教育局はそこに外部指導員を入れなさいと言われる。しかし、配置できるところとできないところがある。ここの課題の解決が何もなくて、霞が関では「こういうことをやったら良いのでは」と言われても、出来るところと出来ないところがある。現実を見てもらいたいと思います。
- 町長～子どもたちの部活動の在り方というのがあつて、その中で公正な時間だとか、そっちが先にあるべきではと思う。あと、給食費に関しては続けていきたいと考えています。牛乳の話なのですが、なかとん牛乳をせっかくやっているのに、もっと飲んでもらうようにしたいなと思っていますが、お金がかかる話なので、今、1本40何円使っているのでしょう。なかとん牛乳に全部変えると200円とか150円ぐらい。いくらになるか分かった。
- 教育次長～今、資料を手元に持ってきていません。大瓶にして教室で小分けする件については、今、1個1個パックに入って子どもたちに一人ずつ渡しています。必要な分だけケースに入って教室に運ばれます。そうではなくて、教室に900mlの大瓶のまま搬入して、教室で小分けして、何かに移してというところで町長からお話がありました。その件について、

管理栄養士と相談したのですが、給食の提供の時に管理上どうなのかについては特に問題ないとのこと。ただ、管理栄養士が心配するのは、飲むコップがどこから提供されるか、どう洗浄するのかということです。他の給食の食器と同じように給食センターから配送し、そのコップを使って、給食センターに戻してもらい洗浄するというのであれば、今までの給食と同じでありますから問題ないかなということに回答を頂いているところです。

○町長～そのように牛乳だったり、食材とかをより地元で採れたものになっていくという、そういう充実が出来たら良いかなと思います。あと、一点、森の幼稚園について、そこも今日、園長が来ていないのですが、状況と今後の考え方を聞かせて貰えたらと思います。

○教育長～森の子ども園は20回計画されています。もう、かなりやってきていますね。相座園長と子どもたちが事業を始めてから、「子どもが変わった」ということを聞いています。その変わったというのは、昨年から見ると子どもたちが積極的になったとか、樹木とか生き物のとの接し方が変わってきた。園の中でも「遊びに変化が見られるようになってきた」と聞いています。残念ながら直接、教育委員会の職員がいつもかかわっている訳ではないので、子ども園の状況は外からしか見えない部分がある。自分も参加したいという思いはあるが、なかなか体が空かないという現実があります。継続することは良いと思うし、小学校の先生方にも、こういうことをやっているのだということを見てもらいたいと思います。体幹を鍛えてほしいと言われるのですが「子ども園はそういうことを一生懸命やっているのですよ」ということを見てもらいたい。それが小学校の先生方に伝わって、子ども園がそういうことをやっているのであれば、小学校でも取り組んでもらいたいなと思っています。相座園長が来られて、園の様子が変わったことは間違いないと思います。ただ、何となく、いつも取り組んでいる人は決まっている。もう少し別の先生も経験してくれたらなと思っています。

○町長～幼児教育のところで、地域の自然とかを生かしながら、子どものうちに育っていくところをしっかりとやって貰えば良いかなと思うし、今、相座園長に来てもらったら、長い教員経験の中で、小学校に来るまでにどんなふうになら力を発揮するか、育てて入ってきてほしいかという視点とか、もともと保育所から出発しているところがあるので、そういう面では非常に子ども園は頑張ってきたなと思っていますが、教育的な部分、頭だけではなく体も心も、それをより高めていけるような部分に期待している。先ほど、中学校の先生がどんな子ども達が入ってくるか興味があるという

のであれば、小学校の先生たちは子ども園に興味を持ってしかるべきですよね。逆は無理にしても、その中で、教育参加型、共有型でいろんな授業とかプログラムが作られたら良いなと思うので、是非、そこを園長に伝えて深めて貰えればと思います。放課後子どもプランについて、放課後の活動の充実についてもさらに内容の充実を図って頂きたいというのと、図書館の利用については数的にも大きく落ち込んでいるので、学校の図書館が充実しているから子どもたちが行かなくて良いということではないと思うのですね。小学校、中学校、図書館一体で、是非、子どもたちと本というところをやって頂きたいなと思う。

- 教育長～図書館については読み聞かせを行う人に期待しています。小学校の図書については、その人たちが本の組み替えとかをやってくれているので、小学校の読書活動は成果が上がっている。中学校は委員会なのですが、殆ど活動がなく推進がない。でも国語の成績はけっして悪くない。本を読むという時間をとっているけども、図書館としての機能が出ていないというのが現状です。
- 町長～小学校、中学校の校舎改修に合わせて、そういう図書館とかというものを作っていくとか、社会教育と大人の学びの場とつなげていくとか、いろんな可能性があると思うので、とりわけその中では体育館というのもそうなのですが、図書館というのは共有してつながっていける一番の場なのかなと思います。図書費はちゃんと使い切れているのかな。
- 教育次長～毎月、整理して使っていています。
- 教育長～浜頓別の放課後の学童保育は預かっているだけなのだそうです。何もしていないとは言いませんが、それからみると中頓別はしっかり対応していると評価しています。メニューが決まっていて、ただそこで見ているだけではなく、それなりに活動している。そこが浜頓別とは違うところと嬉しいことを言ってくれました。ただ、どうしても1・2・3年生が中心になって、4・5・6年生になると自分の時間として使いたいのか家に帰ることが多くなる。今は一人の5年生だけです。1・2・3年生で来ている子は、そこで英語をやったり算数をやったり物作りをやっているの、それなりのことができていると思う。これ以上のことをとると、今やってくださっている方は、殆ど専門的な教育を受けていない。家庭教育のリーダーだったり、放課後の指導員の研修があるのですが、その研修で学べる機会を作ってあげたいと思っている。
- 町長～是非、そうして貰えたらと思います。スポーツ少年団とか習い事とかも含めて、そういうところと切れ目なく、全体的が子ども達の中でつながって、家庭と学校の間を豊かにしてくれたら良いなと感じます。

- 教育長～プランが終わってから少年団に行くという事はありますね。
いろいろなスポーツを「やりたいね」という話があります。
- 町長～来年度の事業に向かって思いつくことはお話したかなと思うので
すけど。
- 教育長～日ハム後援会が出来ましたので、見たい子と球場に行きたいな
と思っています。よろしくお願いします。
- 町長～「夢と希望、感動体験」是非、積極的に使って下さい。泊まらな
く
てはいけないけど、日帰りとなるとまた大変だと思いますけど、劇団四季
とかが良いかもしれない。
- 教育長～時間的には子どもは疲れるかも。
- 町長～子どもたちは疲れるものなのですかね。「子ども達大変だ」とよく
先生達言うのですが、大変なのは大人だけなのではないかと思って。
- 教育長～プロ野球を3時間あそこに座って見ると、子どもらはたぶん帰
りのバスはみんな寝ていますね。プロ野球を見た後に劇団四季に行って、
最初は起きているかもしれないですけど、途中は寝ているかも？でも、そ
ういうこともやってみたいなと思っています。
- 町長～むしろ、日帰りならディゲームということも考えられるし。
- 教育長～サッカーの場合には何時から何時までということでも2時間半で
間違いないので対応可能ですが、野球の場合にはできないかな。ただ、5
時半になったら終わりということで帰ってくればできると思います。ま
ずは一回やって子どもたちの反応を見て、対応を検討しても良いと思
います。
- 町長～小学校、中学校の施設改修について、相当な事業費がかかる事業に
なるので、合意形成が必要になると思います。そもそも、小学校と中学校
が離れている方が良いのか一緒の方が良いのかというのがあると思うし、
もし、一緒だとしたら場所をどこにするのかですね。そこで、しっかり合
意形成をしていくということが一番大事かなと思います。個人的な思い
としては、せっかく小学校が町民センターの近くにあるので、もし、あの
エリアに何だかの形で中学校がおさまれば、子どもからお年寄りまでの
総合学習ゾーンがあそこに出来上がることになるので、そういう方向性
が一つ、前にも言ったかもしれないですけど、そういうことも一つの選択肢
として幅広く議論して頂きたいなと思います。
- 町長～せっかくの機会ですので、みなさんの方から何かありませんか。
- 教育長～教育長研修会で学力を上げるための方策として一番成績の良い
町の教育長が、「ふるさと教育だ」と言っていました。分かるような気も
するけど具体的にどういう形でやるのか。自分のふるさとに誇りに思う。

- そういう気持ちを付けることが学力向上に良いとのことなのか。
- 町長～あれが効果あったのですかね。今やっているのですか。中頓別探検隊。
 - 教育長～中頓別探検隊はやっています。一生懸命やっています。
 - 町長～かけてる実数はずいぶん違ってはいると思いますけど、昔と比べたら。総合の時間自体が…。
 - 教育長～総合の時間だけでやっていますからね。
 - 町長～1回形が出来てしまうと、何かルーチン化するというか、楽しめてない、或は満足していない部分があるのでは。
 - 教育長～子どもは毎年違うので、同じ内容でも達成感が出ているのかな。同じ授業をやっている、やり方が違うと子どもの印象はことなる。
 - 石井委員～ふるさと教育。今はそこに向かって、また、力を入れなおしても良いのかなという気がしました。
 - 教育長～小学生の親の考え方が変わってきているのかなという雰囲気を感じています。今までの親御さんと、新しい低学年の親御さんとで違いが出ている。教育の考え方も変わってきているので、親御さんの考え方も違ってくるのかと思う。
 - 町長～転勤されている方にとっては、その地域の「ふるさと教育」というより、おそらく「学力」の方が、という感じだと思う。
 - 教育長～先ほどの英語の話ではないですが、うちは小学校は1校だけです。それで良いですが、小学校ごとで英語の能力がでこぼこしていると中学校の英語の授業が「結構しんどい」と言っていました。片方ではアルファベットを全部出来ているのに、もう片方では追い付いていない子どもが一緒に入ってきている。本庁は幸いにして小学校1校ですので、中学校に入ってから整理が可能です。
 - 町長～村田さんがおっしゃっていたとおり、戻ってこないのか。戻ってくれば、また違って良いのですけど、どこかここで育ったことが心に残るような、良い教育が出来たら良いですね。
 - 教育長～何かあるから帰ってくるので、「小学校、中学校の受け入れのケアが深いな。やっぱり帰ってみて中頓に就職しようかな」という気持ちになってもらう。
 - 村田委員～やはり、ここの教育で力を付けてから行かせたい。しょうがないと思います。
 - 教育長～高校があると、その高校生たちが町の核になる。本町には高校がない。逆に考えた時には、高校の維持のために町は必死になる。それが無い。高校がない町で東神楽町の教育長が言っていましたけど、高校がない

から小・中学生の教育にしっかりと力を注げる。浜頓別高校に行くのだけれども、後がない。やらなければならないという意識を持っていると私は思っています。浜頓別高校を卒業してもう一つ上の学校に行って、中頓別に帰ってこようという者が一人でも二人でも出ればと思っているが、現実には一人も帰らない。給食費も半額だし、ハワイにも行けるし、自分の子どももという思いを持ってくればと私は思っています。

○町長～役場の職員も圧倒的に町外出身者が多くなってきて、30歳ぐらいまでのここまで採用してきた若い職員に一人も町内出身者がいないという現実がある。今日付けで地元出身の子どもたち二人に内定を出す。消防は地元出身者はいるのですが、消防職一人と一般行政職一人に合格を出したので、是非、そのまま受けて来てほしいと思っている。

○副町長～複数のところから合格が出る可能性があるのですが、何とも言えないですけどね。

○村田委員～学校の先生で、ここ出身の先生はいないのですか。

○教育長～残念ながら中頓別出身の先生はいないですね。2年か3年したら、そういう先生が出てくる可能性があります。

○町長～だいぶ時間も経過したのですが、最後に皆さんの方から何かありませんか。

○町長～よろしいですか。先ほど頂いたご意見に沿って予算編成に臨んでいきたいと思っておりますし、具体的な教育の内容を充実していく部分については、教育委員会と皆さんと学校、子ども園としっかり連携して取り組んで頂ければと思います。

(5) その他

(特になし)

4. 閉会

それでは閉会ということでよろしいでしょうか。

それでは、平成30年度第1回中頓別町総合教育会議をこれで終了させていただきます。ご苦労様でした。

議事録署名人 石井 美正

議事録署名人 村田 華奈子